

# 高山・市民の森 森林教室実施報告書

## 「ミニ門松づくり」

1 施日時 令和4年12月11日(日) 10:00~14:30

2 参加講師 NPO 森林インストラクターしずおか

担当者 大石、中川

アシスト会員 青野、越智、小嶋、小久保、小長井、佐野、杉山、高橋、早川、矢下

3 参加者 12人(大人8人、子ども4人)

### 4 概要

午前中は森林散策を、午後は「ミニ門松づくり」を行った。当初7家族・16人の参加が予定されていたが、不参加者もあり、6家族・12人(大人8名、子供4名)の参加となった。4班に分かれて森林散策を開始した。大人8名中6名が60才以上と高齢者が多かったが、皆さん山頂まで登り見晴らしの良い景色を満喫してくれた。午後からの門松づくりは、各家族に2台ずつ作ってもらった。竹を切断して、台座と3本組の竹を作ったのち、御幣と鶴と亀を折り紙で作った。台座は周囲にわら縄を巻き、そこにそぎ切りにした3本の竹を立て、その周りに松や梅、赤い実ものを飾り、更に御幣と鶴亀を飾ってミニ門松が完成した。



### 5 詳細

#### 【森の散策】

(第一班 担当:小嶋、青野、矢下)

1家族2名が欠席のため、1家族(祖父母、孫)3名の案内となった。前回の森林教室で一緒だったこともあり、なごやかに話しながら散策を楽しんだ。出発時、インストラクターの持参した袋の中にあるミズメ、フジバカマなどの香りを味わってもらい元気をつけて出発した。参加者は高山によく来ており、1か月の違いで紅葉や落葉に出会えたと季節の変化を実感していたようだ。

「どうして針葉樹はまっすぐに伸び、広葉樹は地面に対して垂直に伸びているのか？」と質問をし、理由として、根の張り方の違いによることを写真を使って説明した。マムシグサの赤い実がとてもきれいだったので、マムシグサについても説明した。小学校4年生になる男児は、昆虫や植物に詳しくクイズを出してもほとんど正解であった。そうこうするうちに頂上に到着、富士山も望まれ風もなく気持ちの良い山頂であった。帰り道もクイズをしながらお弁当の待っている“森の恵”へ無事帰還した。

(小嶋記)

(第二班 担当:佐野、小長井)

参加を予定していた父親が不参加の為、母親と男児(7才)の2名の案内となった。秋の行事にも参加されていたようだったので、まだ行かれていない中間展望台を経由して、山頂に向かい、帰りは観察の森と林道を経由して“森の恵”に戻った。

駐車場の前で、常緑樹と落葉樹の2種類があることを確認してもらい、葉を維持するコストに関連した生存戦略の結果であることを説明した。男児は昆虫に興味があるようで、秋の行事の時にクワガタを捕まえており、今回もクリの木の周りや飼育場所で熱心に探していたが、この時期では見つけることが出来ずに残念だったかもしれない。男児がクワガタを何かでオオクワガタ(オスとメス)を入手したという話をしたので、クワガタの大あごやカブトムシのツノがある理由(メスを獲得する争いに有利)を説明した。

イロハモミジが色づいているのを見て、紅葉と黄葉の仕組みを簡単に説明した。母親はアカメガシワの落葉を1枚拾って持っていたので、葉のつけ根にある花外密腺について説明した。男児は、山頂にあったホオノキの落葉で目の部分に穴を空けてお面を作ったり、林道にあるウラジロでグライダーを作って楽しんでいたりしていた。最後に、“森の恵”の横で、アサギマダラの卵と幼虫を観察してもらったが、写真を撮るなどして興味深そうだった。

(小長井記)

(第三班 担当:小久保、早川)

当班は若いお母さんと6才の女兒、それとシニア女性の3名で、いずれも過去にこの森林教室に参加経験のあるメンバーだった。皆元気そうだったので、今日は頑張っ山頂まで歩くことにした。

この時期は樹々の葉も殆ど残っておらずあまり見てもらう物もないが、まだ残っていたガマズミの実を食べてみたり、フユイチゴを摘まんだりしながら歩いた。美味しそうなナメコも少し手に取ってみた。その後、池まで降りてみたが網に囲われた水辺には近づけず、ただ殺風景な池の風景を眺めただけだった。気を取り直して山頂に向かうことにした。池から山頂下の林道まで山道を一気に登った。「お母さん、お昼まだ？」と女兒はブツブツ言いながらも、途中休息もとらずに頑張っ歩いた。林道まで出て一息つけたので、そこでクロモジやキリ、ミヤマシキミなど木の説明も少し聞いて貰った。

山頂には殆どの班が集まってきた。皆さん景色を眺めたり、鹿の糞を見つけ「草食なので臭くないよ」と聞いて匂いを嗅いでみたり、集まった他の班の人々と芝生の上で談笑したりと、暖かい冬の陽射しを浴びながら気持ちの良いひとときを過ごした。その後は林道を真っ直ぐ下って、“森の恵”に戻った。大人達は途中で落ち残ったムラサキシキブの実を写真に撮ったり、センブリを探したりしながら歩いたが、子ども達はお昼が待ちきれないのか、ダンゴになって矢のような早さで林道を歩き下ってしまった。

(小久保記)

(第四班 担当:杉山、高橋)

元気な5才の男の子から、73才の年配男性まで2家族4人のグループを担当した。参加者の“元気度”に差がありすぎそうでどう廻るか迷ったが、年配ご夫婦は近郊をよく歩かれていて足回りもしっかりしている様子。そこでいつもと違ってやや勾配の大きな八十岡方面の下山道を登ることにした。

メグスリノキの種子を飛ばしたり、ガマズミの実を味見したり、ナメコを触ってみたりした。雑木林ではキツタの蕾を見てオカウコギが山菜になること説明し、アブラチャンの香りを体験したりした。この高山ではピクライト玄武岩と巨斑晶玄武岩の2種類の火山岩が見られるので、その成因などについて話した。また途中にヌタ場があったので、覗いて足跡や獣の毛を見つけた。シカ、カモシカ、イノシシ？

高山では、ここ数年トレランを行うため、ハイキングコースがずいぶん荒れてしまっていた。そのせいもあってか年配の男性がストックを滑らせ、少し斜面を滑り落ちたが幸いケガも無くホッとした。

山頂は良い天気だった。男の子はこれが初めての山頂だったので、ちょっとした崖を登ったり下ったり大はしゃぎだった。年配のご夫婦は、かつては高山をはじめ安部奥にも何度も登られてたとのことで、懐かしそうに景色を眺めていた。

帰りは、広い道を他のグループとまぜこぜになりながら、カラスザンショウやミツマタなどの植物を見ながら下った。また、人工的に作り出したギャップに広葉樹を植林した様子を見てもらい、高山の森の目指す姿なども説明しつつ“森の恵”に到着した。

(杉山記)

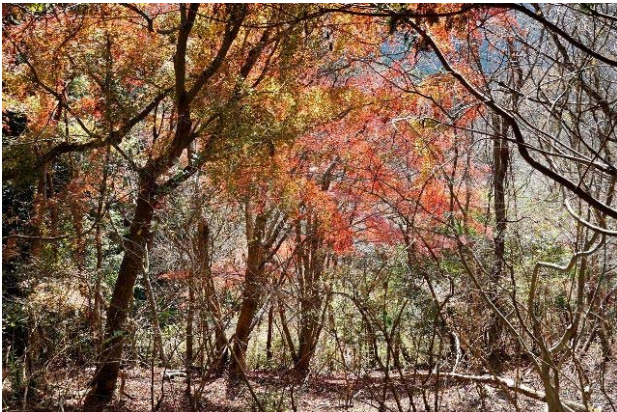
### 【ミニ門松づくり】

まずは竹切り作業から始めた。屋外で作業にかかる前に、治具を使う竹の切断方法を担当から説明した。そして各班でインストラクターの応援を受けながら、専用受け台に乗せて切断を開始した。先ず台座にする太い竹を治具の長さに合わせて切断し、先端を斜めに切る3本組の竹も同様に治具を使って上手に切断することが出来た。切断した残りは竹の端材になったが、これを有効活用したいと持ち帰ってくれた人もいた。

屋内に戻り、先ず御幣と鶴と亀を折り紙で作った。皆さん、鶴の折り紙は作ったことがあるが、御幣作りや亀の折り紙にはてこずってしまったようだ。それでも手順を書いた見本を見ながら、皆さん時間をかけてなんとか作ることが出来た。次に竹の台座の周りにわら縄を5周巻きつけ、端を蝶結びにしてそれらしく形を整えた。先端をそぎ切りにした3本組の竹は、組んだものをテープで固定し、この台座の中に立てた。更に予め準備しておいた松や梅、赤い実の木(千両、南天)を、思い思いに台座の中にさし込んだ。最後に御幣と鶴亀の折り紙を取り付けると、正月飾りらしい賑やかな雰囲気が出てきた。

(報告まとめ 大石)

### 【写真】



紅葉がきれいだった



もうすぐ頂上のところで



頂上でゆっくりと休息した



制止も聞かず坂道を下ってゆく子ども





竹切り作業前に切断手順を説明する



治具についた溝に沿って竹を斜めに切断



御幣づくり



最後に「門松とは」のお話



出来上がったミニ門松の一例